

12月3日、社会党千葉県本部・茨城県本部の共同提案で

成田空港二期工事阻止、ジェット燃料貨車輸送延長に反対する決議

政府、空港公団は「第四次空港整備計画」にもとづき、地元住民の反対を無視し、成田空港二期工事を強行しようとしている。また、「暫定パイプラインおよび貨車輸送は三年で終了する」との閣議決定を反古にし、さらに二年十ヶ月の期間延長を強行しようとしている。空港開港以来、周辺住民および、千葉・茨城沿線住民の生活環境が大きく破壊され、関係労働者の安全と健康がおびやかされ、わが党をはじめ、労働、農民諸団体、反対同盟の調査によつても周辺住民、労働者の多くが二期工事暫定輸送に反対している実態が把握されている。かかる状態のなかで二期工事と暫定貨車輸送の延長、強行を許すことは、農業破壊、周辺住民、労働者の生活と健康破壊をさらに拡大するものである。われわれは、かかる政府、空港公団の暴挙を断じてゆるさず、地域住民、関係労働者、農民諸団体、反対同盟との連けいを強化し、闘うことを決議する。

一九八〇年十二月三日

日本社会党第四五回定期全国大会

「三里塚を闘う労働運動」が一切の未来をきりひらく

動労千葉第四回定期大会（11月26日）が、「八一・三ジェット燃料輸送延長をかってない強固なストライキ体制をもつて阻止する」ことをきつぱりと内外に宣言するや、今、全国、各界からの大きな共鳴、熱い支持をよび起している。反対同盟が全生活をなげうって闘い続けたこの十五年の闘い、わが動労千葉が当局

・動労「本部」革マル反動分子一体となつたありとあらゆる攻撃に耐えハンドルを握つて闘いぬいてきたジェット闘争が、いよいよ力強く激動の八〇年代を牽引し、全人民の未来を切りひらくものであるが故に、総評や社会党はじめ多くの労組、住民運動をも吸引する流動的状況を切りひらきはじめたのである。

当局の先兵となつて、八一・三ジェット闘争つづしに 血道をあげる動労「本部」反動分子と裏切者・土屋一派を粉碎せよ

われわれの闘いが全社会的に大きな流動を引き起していることに恐怖した「本部」革マル反動分子は、国鉄当局と一体となつて、いよいよ本格的に八一・三スト破りと動労千葉破壊策動に具体的にのり出してきた。あの悪名高き「一線を画す」なる敵対方針にもとづき、反対同盟や動労千葉をスパイ・ゴロツキ集団とバトウし、「戸村が死んでおめでとウ。次はお前だ」と黒ワク封筒を送りつけ、昼夜をわかつた脅迫電話をかけ、白昼公然と権力に守られて津田沼支部を襲撃し役員に重傷を負わす革マル反動分子たち、自らがジェットを

裏切つておいて「指令だ」と強制しておきながら「千葉が裏切つた」と逆のデマ宣伝を平気でやる彼ら、成田支部が一切の困難をはねのけて、昨年二波のジェットストを闘つたとき、「ストをやめろ」とわざわざ暴力分子多数でスト破壊に押しつけてきた「本部」反動分子たち。自らが津田沼のストを破壊せんと暴力的におしかけておきながら、反撃されるや布施組織部長の首を切れと当局に処分要請を出す彼ら、——この数え切れない反動的・反労働者の、三里塚・ジェット敵対行為をくり返してきた彼らが裏切者・土屋粹一派を

使つて今や焦りかられたより兇暴・陰險な八一・三闘争破壊のために介入しようとおがき始めたことを我々は満腔の怒りをこめ弾劾し、粉碎していかなければならない。

彼らの策動の一つは、「千葉の土屋粹からの質問に答えて」動労「本部」は燃料輸送阻止を闘うと確認した、なる第一一〇回中央委確認である。（動力車新聞・12月10日付）

土屋粹が千葉における一貫したジェット闘争否定派であり「ジェットをエサにして金をとる」と公言してはばからない一貫した右翼的反労働者的物とり主義の代表であることは周知の事実であり、この「本部」革マル反動分子と土屋粹の策動こそ、当局の要請にもとづく動労千葉の八一・三闘争破壊攻撃の最たるものに他ならない。

全社会的な動労千葉支援・共闘の輪が拡がれば拡がるほど、彼ら革マル反動分子や一部の裏切り分子は、より陰險より兇暴に破壊策動に血道を上げるのだという事を、われわれははっきりと見すえて、闘う団結を一層うちかためて、確信も高く八一年三月にむかつてつき進んでいかうではないか。